

# 平成28年度 第3回 市政モ二夕一会議報告書



市長講演

新居浜市 企画部 秘書広報課

平成29年3月

## (事業の目的)

新居浜市では、市政に関する市民の皆さんの意見をお聴きし、市政運営の参考とするために、市政モニター制度を設けています。

今回の市政モニター会議は、参加希望いただきました市政モニターの皆さんと、市長との直接対話を通じて、市政の状況などをお知らせするとともに、いただいた意見を今後の市政運営の参考とさせていただくことを目的に実施しました。

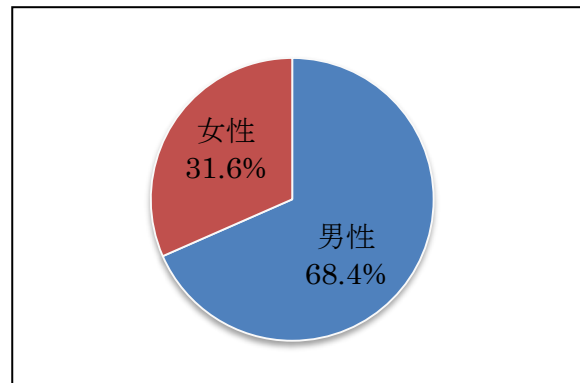
(日 程) 平成29年2月23日(木) 14:00～16:00

(場 所) 市民文化センター 別館1階 第6中会議室

## (参加者の状況)

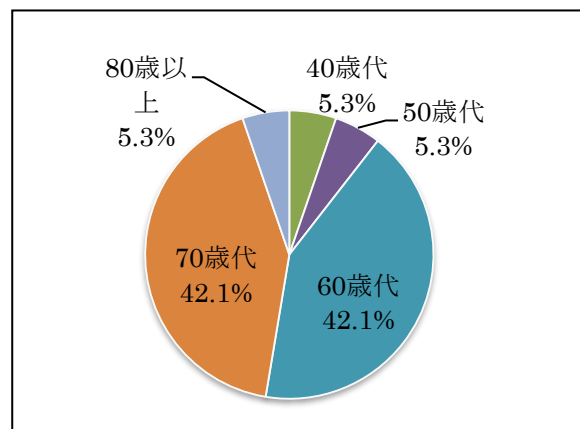
### <性別>

	人数	割合
男性	13人	68.4%
女性	6人	31.6%
合計	19人	100.0%



### <年代別>

	人数	割合
20歳代	0人	0.0%
30歳代	0人	0.0%
40歳代	1人	5.3%
50歳代	1人	5.3%
60歳代	8人	42.1%
70歳代	8人	42.1%
80歳以上	1人	5.3%
合計	19人	100.0%



※年齢は平成28年4月1日時

## (内 容)

①市長講演 「住みたい、住み続けたい あかがねのまち を目指して」

\*市長より、今年度に実施した主な事業、来年度に計画する主な事業等について説明

<新居浜市総合戦略に係る事業> 平成 27 年 12 月 新居浜版「人口ビジョン」、「総合戦略」を策定

新居浜市総合戦略基本目標

1 新たな雇用の創出と地元産業の振興

(主な取組)

- ・新居浜ものづくりブランドの創出・支援
- ・新居浜ものづくりマイスター制度の創設
- ・製造業のイメージアップ等への取り組み
- ・住友各社との連携強化
- ・内陸型工業用地の造成

2 定住人口、交流人口の拡大

(主な取組)

- ・奨学金返済支援事業の実施
- ・お試し滞在の推進、空き家バンク制度の創設
- ・女性が活躍できる環境づくりの推進
- ・企業城下町版 C C R C 実現に向けた取り組みの推進
- ・別子銅山を題材とした小説の出版
- ・銅婚の里 P R の推進

3 子育て支援の充実と健康長寿社会の実現

(主な取組)

- ・小中学生に対する医療費助成の充実
- ・休日夜間急患センターの日曜日の診療時間延長
- ・多子世帯の学校給食費に対する支援
- ・新居浜市イクボス宣言
- ・がん検診の無料化
- ・ウォーキング推進事業

4 広域連携と地域特性を踏まえたまちづくり

(主な取組)

- ・新居浜・西条・四国中央の連携推進
- ・公共施設再配置計画の策定
- ・立地適正化計画の策定
- ・空き家対策の推進
- ・民間木造住宅耐震診断等に対する支援

<その他、平成 28 年度実施した主な事業>

- ・マイントピア別子温泉リニューアルオープン(H28.4月)
- ・総合文化施設あかがねミュージアム(H29.1月末延べ入館者数38万6千人突破)
- ・別子中学校学び創生事業
- ・生きた英語教育の推進

<その他、平成 29 年度に計画する主な事業>

- ・愛顔つなぐえひめ国体の開催

- ・花いっぱい運動の実施
- ・新居浜駅バリアフリー化事業
- ・市制施行80周年記念事業
- ・総合防災拠点施設の建設推進
- ・主要幹線道路の整備
- ・総合運動公園整備の推進
- ・神郷公園の整備
- ・駅南地区の整備方針の検討
- ・ホテル東横インの建設
- ・治良丸南団地建て替え

## ②市政モニターとの意見交換

### \*いただいた意見と市長からの回答（要旨）

	意見	市長の回答
1	増加傾向にある空き家について、空き家周辺に雑木や草が生えたまま放置されており、景観や生活環境が悪化している。行政として何らかの対策をお願いしたい。	新居浜市では現在、空き家等対策の基本的な方針となる「新居浜市空き家等対策計画」の策定や老朽危険空き家の除却費用の一部助成など、空き家対策を推進しております。しかし、空き家そのものではなく、空き家の周辺環境の整備につきましては、個々の事例に応じて現場を確認のうえ、土地の所有者等に市から適正管理のお願いをしている状況です。
2	別子山地域の活性化のために、別子木材センターの設備拡大による資源の有効活用を提言したい。機械を大型化し、柱や角材などの建築材が生産できる設備にする。そのためには現在の敷地では狭いため、別子木材センターを移転して、跡地に支所や公民館を移設し、公民館の跡地には学生の寄宿舎を建設してはどうか。	別子山地域の活性化のためには、森林整備が不可欠であることは強く認識しています。現在、別子山地域の市有林について森林整備計画の策定をすすめている段階であり、別子木材センターの規模拡大や移転については、本計画策定後に検討してまいりたいと思います。なお、別子木材センターの敷地は市有地ではないため、仮に社屋移転となりましても、跡地への支所等の移設には土地所有者の了解が必要になります。また、別子中学校の寄宿舎につきましては、当面は校庭の中に18室の木造の寄宿舎を建設する計画で作業を進めております。
3	地震対策について ①市内小中学校校舎の耐震工事は完了していると思うが、天井板の脱落、窓ガラスの飛散、備品等の転倒落下についての対策はできているのか、体育館も含めて教えてほしい。	①市内小中学校の建物については、全校区において耐震対策工事は完了しています。 体育館についても耐震化は完了しており、照明器具等の落下防止等も実施済みです。ただし、教室の照明器具の落下防止、天井落下対策、窓ガラスの飛散防止、備品等の落下対策についてはこれからの対応となりますので、今後調査のうえ、できるところから進めてまいります。

<p>②新居浜市では地震の最大震度が7と予想されているが、倒壊家屋はどのくらいあると市は想定しているのか。また、耐震対策が必要な家屋の数と、そのうち対策を実施した家屋はどれくらいあるのか。耐震対策への補助を増やして政策を推進する考えはないか。また、同じく家具の転倒防止対策への費用補助制度の利用率と、これら補助制度の市民への周知について、市の考えを聞きたい。</p>	<p>②市内木造住宅約3万9千戸のうち、51%にあたる約2万戸が耐震性が劣る建物と想定しております。そのうち、どれだけの建物に耐震対策が行われているかについては、現在把握しておりませんが、国が実施した住宅・土地統計調査によると、平成21年からの5年間で約830件、年間で約170件程度の地震対策工事が行われているものと推計されます。耐震対策の補助につきましては、現在、耐震改修にかかる費用平均200万円程度に対し、1件につき最大114万円、約2分の1程度の補助を行っていますので、ぜひ制度をご活用いただけたらと思っております。家具の転倒防止事業の受付件数については、平成25年度の事業開始からの累計で、平成28年12月時点で369件、費用としては383万円の補助金を支出しております。本制度についても、対象が65歳以上の世帯ということで限定はされますが、対象世帯の方はぜひご利用いただけたらと思います。</p>
<p>③市の津波ハザードマップによると、市内の海岸沿いは広範囲に浸水することになるが、避難対策をどう考えているか。避難施設の建設や、民間の対応できる施設に避難を受け入れてもらうよう協定を締結する等の施策が必要ではないか。</p> <p>④緊急避難場所に学校が挙げられているが、避難を受け入れる体制は整っているか（夜間でも校舎に入れるか、校門は開いているか等）。特に高等学校は市の管轄でないため、より堅密な調整により非常時に備える必要があるのではないか。</p>	<p>③、④新居浜市では、海岸沿いなどの、津波で護岸が崩れた場合には浸水のおそれがある区域については、学校の校舎を津波避難ビルとして、緊急避難場所に指定しています。夜間休日など職員が不在の場合でも、校舎の鍵を入れた津波避難ビル用のキーボックスを各学校に設置しており、震度5弱の揺れがあると自動的に開錠されるようになっています。校舎に入る際は、そのキーボックスから鍵を取り出して、玄関の鍵を開けて中へ入る仕組みになっています。校門については、また高等学校との連絡調整の件も含めて、担当課に確認いたします。</p> <p>なお、学校から遠い地域の方については、民間のビル等と自治会で契約を結ぶ、などの方策もこれから考えて行かなければならないと思っております。</p>
<p>⑤備蓄品について、食料と水は市民全体を対象として、何日分を用意しているか。またその保管先や市民への配布方法についても教えてほしい。また、3日間は個人の備蓄でまかなうこととされているが、備蓄していない世帯も多いと</p>	<p>⑤備蓄については、どれだけを備蓄すればよいのかという問題もあり、難しいのですが、現在新居浜市では、市全体で避難が必要と思われる方の、1食分（約12,000食）の用意はしております。これを、以前は一括して備蓄していましたが、平成27年度から各校区ごとに分散備蓄することとなりました。まだ全ての校区に行き渡ってはいませんが、徐々にこの分散備蓄を進め、各校区である程度の備蓄ができるようにしたいと考えてお</p>

	考えなければならない。市民に対する啓発についてどのように考えているかを聞きたい。	ります。地震発生時には校区内であっても運搬が大変だろうと思いますが、避難所である体育館や学校、学校に近い公民館に備蓄するようにしております。家庭での備蓄については、以前は3日分と言われていましたが、今では最低7日分（そのうち3日分は非常持ち出し用）とされています。この家庭での備蓄については、今後、いろんな場で皆さんに広報し、周知徹底を図ってまいりたいと思います。
	⑥各地域に自主防災組織が編成されているが、実質を伴っているところは少ないのではないかと。市が主導して防災組織の育成や市民への啓発を推進する必要があるのではないかと。	⑥新居浜市では現在、124の自主防災組織が結成されております。校区単位では全て結成されていますが、個々の自治会単位での防災組織が一番効果的ではないかと考えておりますので、ぜひ単位自治会で防災組織をつくっていただけるように、お願いをしているところです。そのために、防災士も各自治会に必ず一人はいる、という状態にしたいので、防災士の研修についても市が補助を行い、取り組みを進めております。
4	企業城下町版 CCRC の実現に向け、いはいま倶楽部に対する PR を行っ てはどうか。	先月、東京大阪で実施いたしました、いはいま倶楽部との懇談会、また住友関係企業との懇談会の際にも本件について説明、ご協力へのお願いをさせていただきました。本市では、新居浜に勤務経験のある住友各社 OB を主たるターゲットとする全国初の企業城下町版 CCRC 推進を考えていることから、今後も引き続き東京大阪等での PR をさせていただきたいと考えております。
5	総合運動公園整備の推進について 教えてほしい。	長年の懸案でありました総合運動公園整備については、先般、基本構想の案がまとまり、2月21日から市民の皆さまの意見を伺うパブリックコメントを実施いたしております。素案の内容を簡単に申しますと、平尾地区に野球場と陸上競技場、体育館の施設を集約し、プールは現在の場所で整備するという内容をお示ししております。素案の内容は市のホームページからダウンロードもできますので、ご意見がございましたらぜひお聞かせください。皆さまからいただいた意見を踏まえて、できれば今年度中に構想を取りまとめたいと考えております。
6	新居浜市を含め、東予地区（新居浜市、西条市、四国中央市）には大学がない。将来の新居浜を支える人材の育成のために、ぜひ新居浜に大学の誘致を検討してほしい。	新居浜は進学率も高く、大学がないために、約7割が高校卒業後は県外へ進学しており、そうになると就職後もなかなか新居浜に帰ってきてもらえない、という問題があります。人口減少をくい止め、地方創生を成し遂げるために、高等教育化、即ち大学の誘致が有効であることは十分に認識しておりますが、まずは市内にある高等専門学校の充実化に取り組んでまいりたいと考えております。

7	<p>総合運動公園の整備促進という話があったが、山根テニスコートはフェンスが低く、とても使い勝手が悪い。設備を建設する際は、もっと実際に則った仕様にしてほしい。また、西条市などの他市では、シニアの使用料は通常半額だが、新居浜市はシニアも一般と同じ金額なので検討してほしい。</p>	<p>総合運動公園構想案では、新たなスポーツ施設として、テニスコートは入っておりません。なぜかと申しますと、現在、山根テニスコートに6面コートがありますが、これを公式戦が開催できる8面に増設してほしいとの要望があるためです。山根テニスコートを2面増設するか等は、総合運動公園構想の中で考えてまいります。その時に現状の使い勝手の悪さについても考えていきたいと思っております。ただし、使い勝手が悪いというのが、フェンスが低いということだけでしたら、早急に改善できないか検討します。</p> <p>また、使用料についても検討させていただきます。</p>
8	<p>現在の市内のバス路線は便数が少なく、非常に不便を感じる。デマンドタクシーも旧市地区では使えないなど制限がある。今後高齢化が進む中、バス路線の充実は不可欠である。もう少し小型のバスで小回りをきかせて、接点を多くつくりながら、安価で便利な市民の足として、市内をうまく繋げられるような見直しが図れないか。</p>	<p>デマンドタクシー導入以前に、市内巡回バスの運行という案がありましたが、市民の皆さんから「運行コースに自分のところを通らない」等色々な意見が出まして、実現に至らなかったと聞いております。今後、新居浜市では、コンパクトなまちづくりを目指す立地適正化計画や、CCRC構想などの現在策定中の計画や構想との整合性を図りながら、「地域公共交通網形成計画」の策定を進めていく予定です。その中で、市内の公共交通について、現在のデマンドタクシーをどうするか、もう一度巡回バスを検討すべきか、あるいは既存の民間バス会社に路線の拡充をお願いするか等を検討させていただきたいと思っております。</p>
9	<p>若宮小学校の廃校後の校舎等の活用について、校舎は上部にある生涯学習センターのような文化活動拠点に、また体育館や運動場は地域の人や団体がスポーツ振興や軽運動に利用できるようにしてほしい。また敷地内には樹木が美しく育っている箇所があるので、自然公園としてベンチを置いたり、通路を石畳にする等して、老若男女が楽しめる、文化的で、環境の整備された場所にしてほしい。</p>	<p>若宮小学校の隣接小学校との統廃合については、2回の意見交換会を実施し、地元の皆さんから様々なご意見を伺いました。今後の小学校跡地の利用方策の問題につきましては、地元の皆さんと新たに協議する場を設けて、議論を進めてまいりたいと思っております。規模の大きい施設ですので、地域だけでなく新居浜市全体でどう考えていくか検討しなければならないと思っておりますので、ぜひ公園化、また生涯学習大学あるいは高齢者大学、というご意見について、またそういった協議の場でも再度ご提言いただけることを期待しております。私どもも、こういったご意見があるということを十分に踏まえて、今後議論を重ねていきたいと考えております。</p>
10	<p>前市長時代は、市役所に行くと時々、新居浜市歌が庁内放送されていた。最近あまり庁内放送されていないようだが、またかけて</p>	<p>市歌については、個人の好みもあり賛否両論なところもありますが、私は好きですので、お願いして昼の12時15分から、庁内放送でかけていただくようにしております。また、時間帯が合いましたら、お聴きになってみてください。</p>

	ほしい。	
11	<p>水道局の在り方について、数年前までは漏水や故障のトラブルにもすぐに職員が対応してくれていたが、最近は水道センターへ行くように指示されるだけであり、また水道センターへ頼んでも対応までに時間がかかる。漏水時などは早く来てほしいのに、かなりの日数を待たされた。指定水道業者の数が適当か、もう一度検討してほしい。</p>	<p>対応が遅いとのことにつきましては、非常に申し訳なく困ったことだと思いますので、早速、対応の仕方がどうなっているのか確認いたします。指定水道業者の数が足りないということはないと思います、対応の仕方の問題ではないかと思っておりますので、早期の対応ができるように早急に体制整備を図りたいと思っております。</p>
12	<p>近隣の市営住宅の入居者が、どんどん自治会から抜けていくのを見て、疑問に思っている。市営住宅の入居者はお年寄りが多いが、災害が発生した際に自治会未加入の方は名前等の管理ができないので助けようがない。市営住宅の入居者に対しては、市から自治会に加入するように強く勧めたほしい。</p>	<p>自治会加入率の低下については、全市的に大きな問題となっています。大きな原因の一つである、民間のマンションやアパートの入居者が自治会に加入しない、という点については、不動産協会にも市から依頼等行っていますが、足下の市営住宅がその状態というのは問題だと思いますので、早速、自治会への加入を入居の条件とする等の手立てを検討いたします。ただ、市営住宅の入居者には高齢の方が多く、役員をするのが難しい、といったことが理由になっているのではないかと思います。現在、高齢者世帯については会費を半額にする、或いは役員を免除する等も検討しながら、どうすれば自治会加入率をアップすることができるのか、ということ地域コミュニティ課の方ですすめておりますので、ご理解の程お願いいたします。</p>
13	<p>観光という観点から、ぜひ旧別子の活用を検討してほしい。日浦から銅山越までの登山道の整備と観光への活用、特に大山積神社側のルートは整備が十分でないと感じる。日浦の駐車場についても、登山シーズンの休日にはいっぱいになるので、整備してほしい。また、昔の筏津山荘跡地は旧別子を軽登山した後、歩いて行ける距離にあるので、何らかの施設をつくって、登山コースの一つとして、観光による交流人口の増加に活用しては</p>	<p>別子銅山の近代化産業遺産につきましては、住友側より、東平までは新居浜市で管理することに了承をいただいておりますが、一方、旧別子については「住友の聖地」ということで、現在も住友グループで管理整備を行っていただいております。そのため、旧別子の活用や観光へのPRについては住友側の了承をいただく必要があり、今の段階では旧別子を観光化するのは難しい状況です。ただし、日浦の駐車場については市の管理でするので、近くに空地があるということであれば、駐車場の拡張も考えてみたいと思います。筏津山荘跡地については、地元の自治会等でどのような活用をすればよいか、また管理をお願いできるのか等を協議していただいております。産直市など色々な案は出ておりますが、まだ結論には出ておりません。もう少し議論していただいて、それでも結論が出ないようでしたら、市側</p>



	どうか。	から提案して進めていく必要があるかもしれないと考えております。
14	自治会放送などを行っている広報塔について、最近の住宅は密閉性が良く、近くに高い建物や樹木があったりすると、放送が聞こえにくい。特に災害などの非常時には、全く聞こえないのではないか。有線放送を行って、希望者には各家庭での設備の設置について、市から一部補助をしてほしい。	自治会の広報塔はかなり普及しているのですが、戸を閉めていたら聞こえにくい、特に災害時には風雨により全く聞こえないのではないか、という声が多くあります。新居浜市では災害対策のために、国の支援を受けてFM放送局を設置することにしたしました。あかがねミュージアムに、今年の秋までにFM放送局を開局する予定ですので、災害情報についてはそちらで情報伝達が可能となります。FM受信機を個人で購入するか、市が補助するかについては、今後また検討してまいります。受信機を設置いただくと、緊急時には自動的にスイッチが入って放送が流れる、という仕組みを考えております。
15	私の住む地域でも自治会員の減少が問題となっている。 自治会未加入者であっても、自治会が管理しているごみステーションにごみを捨てているが、ごみステーションにカゴを設置する等の費用は、自治会費から費用が支出されている。この費用について、市で補助できるようであれば考慮してほしい。	ごみと自治会加入率の問題については、まちづくり校区懇談会等でも多くの方からご意見をいただいております。自治会が管理しているごみステーションになぜ未加入者が捨てられるのか、というご指摘はご尤もですが、かといってごみを捨てさせない、となれば、未加入の方がごみを捨てる場所がなくなりますので、市が費用をかけて個別に回収しなければならないという大変非効率なことになります。この問題は、自治会など地域のコミュニティの方々と市が一緒になって、もっと根本的に考えなければならないということで、加入率の促進とともに、今年度から真剣に取り組んでまいりたいと考えております。 それに合わせて、ごみの有料化、特に持ち込みごみや大型ごみの有料化についても検討させていただきたいと考えております。これについても議論があるかと存じますが、ぜひ多くの皆さんに議論に参加いただいて、その中でごみステーションの管理等についても、またご意見をいただきたいと思います。
16	新居浜東高から清掃センター入口まで抜けた道路（県道郷桧の端線）は、最終的に船木のインターチェンジまで繋がる計画があるのかを教えてください。	県道郷桧の端線については、現在清掃センター入口まで来ておりますので、そこからサッカー場進入路までの約 600mについては、今年、国体開催までに供用開始予定です。そこから 11 号バイパスまでの約 800mについても、現在県の方で現地説明会を開催いただいている段階で、今後用地買収と工事がありますので、まだ少し時間はかかりますが、最終的には 11 号バイパスまで繋がりますので、インターチェンジにアクセスできる幹線道路となります。

## (参加者アンケート)

市政モニター会議に参加いただいたモニターの皆さんに、感想やご意見をうかがい、今後の参考とするためにアンケートを実施しました。

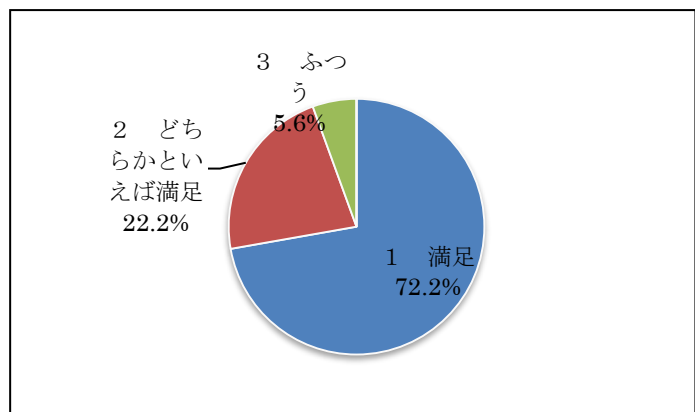
### <アンケート概要>

調査対象者	第3回市政モニター会議参加者 19人
調査期間	会議実施日～平成29年3月6日(月)
調査方法	会議実施時にアンケート用紙を配布し、後日郵送で提出
回収数(率)	18人(94.7%)

### <調査結果>

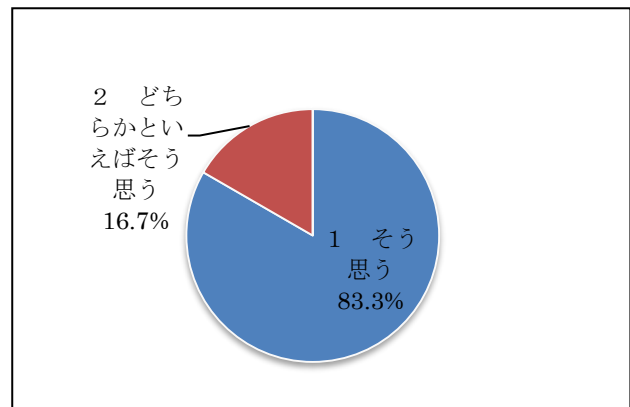
Q1. 今回の市長講演や意見交換の内容について、5段階の満足度でお答えください。(1つ選択)

1. 満足	13人
2. どちらかといえば満足	4人
3. ふつう	1人
4. どちらかといえば不満	0人
5. 不満	0人
合計	18人



Q2. 今回の意見交換会に参加して、市の取り組みに対する理解や関心が高くなったと思いますか。(1つ選択)

1. そう思う	15人
2. どちらかといえばそう思う	3人
3. どちらかといえばそう思わない	0人
4. そう思わない	0人
合計	18人



**Q3. 今回の意見交換会に参加しての感想やご意見を自由に記入してください。**

また、今回の意見交換会で発表できなかった、市政へのご意見、ご提言がありましたら記入してください。いただきましたご意見は、関係課所に送付し、今後の市政運営の参考とさせていただきます。(自由記入)

たくさんの感想やご意見をいただき、ありがとうございました。本報告ではその一部を紹介します。

**【会議について感想】**

- 皆さんの熱心なご意見を聞かせてもらって勉強になりましたし、市長の応答も理解できました。
- 新居浜市創生に向けたあらゆる角度からの取り組みが良く伝わって来ました。お互い頑張りましょう。
- 意見交換会での市長の私たちに対する姿勢は真剣そのものでした。市制施行80周年を盛り上げるための事業の成功を祈ります。
- 市長と直接話を聞く機会はあまりないから、いろいろな方面での取り組みなどを聞いて良かったです。
- 市長はじめ職員の方々の市政に対する取り組みの熱意を十分感じることができました。また、モニターの方々の問題点の指摘、質問等も聞くことができ、大変参考になりました。
- モニター会議の初参加は、市政取組の大枠を理解するのに良い機会となり、大変良かったと思います。
- 若者も、お年寄りも「住みたい、住み続けたい あかがねのまち」新居浜を目指して頑張ってください。期待しています。
- 前回の施設見学会と同様、参加者全員が今の市政に相当関心を持っておられる方の集まりと実感させていただきました。
- 市長の市政への取り組み、感謝します。今後とも宜しく願います。
- 参加しないとわからなかった、市の関係者の方々の、私たち質問者や問題に対する誠実な対応に感心しました。
- 以前に参加した市政モニター会議より内容が多岐にわたり、他地区の課題も参考になり、また市長の説明も「もう少し掘り下げてほしい」という項目もありましたが、全体としてよくわかるものでした。質問の内容によっては、担当課長など実務者の方々の説明があっても良いかと感じました。
- 意見等を発表したらいつ頃実施可能か、また申請したら順番待ちとかではなく危険度も考慮してください。

**【市政へのご意見、ご提言】**

- 人口減トレンドの中、市の活性化に向けての取り組みは十分理解します。しかし、人口減の抜本的解決は難しい中、空家・空地対策に一層力を入れて、身近な生活環境の整備を図っていくことが重要と思います。例えば、自治会毎の地域交流センターの拡大及び充実(防災センターとしても活用できる)など。
- 会議でも話題となりましたが、自治会費を、新居浜市民は義務化にしていきたいと思います。組長も役員もしたくない、だけどゴミは出したい、人の世話にもなりたい、自治会の配布品(連絡事項、市政だより)はほしい、というモラルに欠けた方が増えており、義務化すればお世話して下さる方も納得してもらえるのでは、と思います。
- 自治会未加入者の状況が把握し辛い。特にマンション、借家等への入居、引越しの場合はわからない。マンションや借家のオーナーさんに、身近な近隣の方や自治会長まで入居状況を時々連絡していただくシステムの構築を、行政も含めて考えていただきたい。
- 自治会館で使用する水道料金及び下水道使用料は、毎月基本料金を納入していますが、実際に使用する水量は、年間でもひと月の基本料金の水量と変わりありません(1年で7m<sup>3</sup>以内)。できれば、見直していただけないか？

- ・防災士の研修を市が補助すると聞きました。小・中学生にも幅広く受講できるようにお願いします。
- ・若宮小学校の統廃合に関連して、若宮校区（新田町）の道路整備、住宅の建築可能な道の確保さえできれば、若い人たちが住みつく場となり、世代の若返りができるように思う。教育環境も良く、大型ショッピングセンターや総合病院、診療所、郵便局も近く、生活のしやすいところです。住友所有の土地が多いと聞きますが、市との話し合いで分譲できるような方向に進めば、人口増加のお助け地になると思います。
- ・基本目標2「企業城下町版CCRC実現に向けた取組の推進」に関して、構想案の基本理念として、コミュニティの再構造を意味する「RCC（リ・クリエイトコミュニティ）が掲げられていると新聞でも読みました。若宮校区の新田町が拠点エリアに含まれて、住民減少の歯止めになればと期待しています。
- ・今年は市政施行80周年の記念の年であります。様々な催しが計画されているとのことで、楽しい1年になりそうです。新居浜少年少女合唱団は、新居浜を代表する文化団体の一つと思います。子どもからお年寄りまで幅広く受け入れられる少年少女合唱団の歌声をぜひ80周年のイベントで聴けたらと思います。
- ・別子銅山を題材とした書籍の出版が検討されている様ですが、世界に誇れる産業遺産として期待をしています。
- ・地域の公民館でイベントが催された際、音響機器の不具合と老朽化で音が途中で出なくなるトラブルがありました。地域活性化のためにも、速やかな対処で音響機器の更新をお願いします。
- ・今からの市政、主要課題の大半が産・学・官の連携が前提となっていると思います。特に身近な新居浜高専とのつながりについて、現在卒業生のうち何人が新居浜市に残っているのでしょうか。かつて新居浜に唯一あった短大の廃校に関して、市も、市民も、企業もあまりにもお粗末な対応だったのではとの思いが今もなおあります。中央で学んだ学生は地元に戻りにくい、地方で学べば地方に残ってくれる、普遍の原理かもしれませんが、今からは県内に目を向けるべき時かもしれません。地元で学んだ学生は新居浜に、県内に残ってもらうくらいの気構えと、受け皿の確保、そのための産官学の更なる連携強化が必要ではないでしょうか。
- ・新居浜署管内で高齢者の交通事故が多発しています。高齢化率約30%の高齢化社会に入り、交通事故自体が変革の時を迎えたのではないのでしょうか。特に高齢者の事故は、即、要介護につながります。対策は、自分が事故を起こさず、事故に遭わない、即ち自分の身は自分で守る、の原点です。これを市民個々に周知～納得～実行が唯一の施策との思いです。検討いただければと思います。

～ご協力、ありがとうございました～

